

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地														
西鉄自動車整備専門学校		昭和52年12月1日	椎葉 小夜子		〒816-0922 福岡県大野城市山田3丁目12-1 (電話) 092-581-7435														
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地														
学校法人西鉄学園		昭和37年2月27日	高崎 繁行		〒816-0922 福岡県大野城市山田3丁目12-1 (電話) 092-586-2480														
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士														
工業	工業専門課程	自動車整備科		平成7年度文部科学省 告示第7号	-														
学科の目的	即戦力としての知識・技術を習得、コミュニケーション力や社会人マナーに優れ、業界で働く覚悟を持った人材の育成をする。併せて、整備士養成機関としての使命を果たすべく、二級自動車整備士資格の全員取得を教育目的とする。																		
認定年月日	平成28年2月29日																		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技												
2年	昼間	2400時間	1017時間	0時間	1383時間	0時間	0時間												
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内数)	専任教員数	兼任教員数	総教員数													
70人		56人	11人	8人	1人	9人													
学期制度	■前期: 4月1日～9月30日 ■後期: 10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 中間試験と期末試験。評価方法は5段階評価。 5:85点以上 4:70点以上 3:45点以上 2:30点以上 1:30点未満 所定の成績取得科目を取得し、出席すべき日数の出席率が90%以上であること。 学生納付金を納めていること。卒業については、更に、国土交通省が定める規定の時間を満たしていること。														
長期休み	■春季: 3月下旬から4月上旬に10日間程度 ■夏季: 7月下旬から8月下旬に30日間程度 ■冬季: 12月下旬から1月上旬に14日間程度			卒業・進級条件															
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 学生の諸状況の早期把握、保護者との連帯強化により早期対応に努めている。出席状況や成績を保護者に通知情報の共有に努めている。			課外活動	■課外活動の種類 無 ■サークル活動: 有														
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(令和元年度卒業生) メーカー系自動車販売会社 自動車整備業界 ■就職指導内容 履歴書の書き方、模擬面接、外部講師による一般常識 ■卒業生数 : 28 人 ■就職希望者数 : 27 人 ■就職者数 : 27 人 ■就職率 : 100 % ■卒業生に占める就職者の割合 : 96 % ■その他 : (令和元年度卒業生に関する令和2年度5月1日時点の情報)			主な学修成果(資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和元年度卒業生に関する令和2年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>二級ガソリン自動車整備士</td> <td>②</td> <td>28人</td> <td>24人</td> </tr> <tr> <td>二級ジーゼル自動車整備士</td> <td>②</td> <td>28人</td> <td>22人</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄			資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	二級ガソリン自動車整備士	②	28人	24人	二級ジーゼル自動車整備士	②	28人	22人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																
二級ガソリン自動車整備士	②	28人	24人																
二級ジーゼル自動車整備士	②	28人	22人																
中途退学の現状	■中途退学者 5名 ■中退率 8% 平成31年4月1日時点において、在学者62名(平成31年4月1日入学者を含む) 令和2年3月31日時点において、在学者57名(令和2年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更、学習意欲の衰退、等 ■中退防止・中退者支援のための取組 学習意欲の衰退については、学生の諸状況の早期把握、学生との面談、保護者を含めた面談などにより対応している。家庭の経済的環境の変化に対しては、奨学金、教育ローン等の紹介や学費分納制度などにより対応している。																		
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 特待生制度、指定校制度、三級自動車整備士有資格者優遇制度、既卒者優遇制度、兄弟姉妹・親子支援制度 ■専門実践教育訓練給付 : 前年度給付対象者なし																		
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無																		
当該学科のホームページURL	https://www.nishitetsu-seibi.ac.jp/																		

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

教育の質の保証及び改善をするため、教育活動の状況に関する評価を行い、業界の要請を十分に活かしつつ実践的かつ専門的な職業教育を主体的に実施する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

- ・学校評価実施規程第11条
- ・校務運営規程第5章 教育課程編成委員会第9条
- ・校務運営規程第7章 校務分掌第12条二項

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和2年11月1日現在

名前	所属	任期	種別
西本 考造	トヨタカローラ福岡株式会社 総務部 人事グループ グループ長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日	③
井手 克英	トヨタカローラ福岡株式会社 サービス部 技術グループ グループ長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日	③
村川 英司	一般社団法人福岡県自動車整備振興会 指導部 部長	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日	①
目原 宏輝	西鉄自動車整備専門学校 教務・就職課	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日	
阿納 弘通	西鉄自動車整備専門学校 総務・学生課 係長	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日	
浅井 朋晃	西鉄自動車整備専門学校 広報課 係長	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年間の開催数及び開催時期

年2回(8月、9月)

開催日時(実績)

第1回 令和 2年 8月 5日 14:00～14:50

第2回 令和 2年 9月10日 15:00～15:50

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

インターンシップをより良いものにするために、インターンシップ時期や体験プログラムの検討等について、企業側と綿密な打ち合わせを行い、学校側の要望と企業側の要望を打ち合わせる必要がある。また、学生と店舗側とのコミュニケーションをとるための日報等の作成を行い双方の状況を確認し、今後の採用活動や就職活動をスムーズに行うための環境整備を行うことで良い人材の育成につながると考えられる。学生達が社会人として入社した時のギャップを埋められるようなインターンシッププログラムを作成し、実行することが急務だと考えられる。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業との連携により、勤務体制を通じて実務に関する知識、技術及び技能を習得し、社会人として必要な能力を育成することを基本方針とする。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

実施前に打ち合わせを行い実習内容詳細について決定する。実習期間中、担任、教務・就職課が各企業を訪問し、学生の学修状況について直接確認するとともに、実習担当者との情報交換を行う。
実習終了時には、実習担当者による学生の学修成果の評価をふまえ、担任が成績評価を行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
企業実習 ①	企業採用担当者の方から社会人としてのマナー、心構え等を説明していただき、働くことの意味、仕事に対する理解を深め、就職に対する意識を早期に持たせる。夏季に行う企業実習に対する注意点などを事前に説明する。	トヨタカローラ福岡(株) ネットトヨタ福岡(株)
企業実習 ②	授業で学習した知識と実技の一体化を図ることを目的とする。また、現場を経験することにより社会人としての厳しさを意識させるとともに基本的な業界の知識、顧客サービスや整備技術の習得を目的とする。	トヨタカローラ福岡(株) 福岡トヨペット(株) 福岡トヨタ自動車(株) ネットトヨタ福岡(株) ネットトヨタ西日本(株) トヨタカローラ博多(株) 福岡日産自動車(株) 日産プリンス福岡販売(株) (株)ホンダ四輪販売福岡・大分 (株)九州マツダ 九州三菱自動車販売(株) 福岡スバル(株) 大分トヨペット(株) いすゞ自動車(株) 富士自動車(株) (株)ヤナセ (株)バージョングループ 西鉄エム・テック(株)
企業実習 ③	夏季の企業体験で学んだことを踏まえ、就職活動についてより実践的な講義やロールプレイングを行い、学生の仕事に対する意識や覚悟を高める。また、企業の評価について検証を行い課題を認識し、改善を図る。	トヨタカローラ福岡(株) ネットトヨタ福岡(株)
企業実習 ④	日産EV(電気自動車)リーフやノート、フェアレディZ等の実車を学校に持ち込んでいただき、技術講義を受講したり、自動運転技術や走行性能を体感したりすることにより、自動車の最新技術や安全性能、環境問題等を理解する。	日産自動車(株) 九州日産(株) 日産プリンス福岡販売(株) 福岡日産(株) 北九州日産モーター(株) 山口日産自動車(株)
企業実習 ⑤	大型トラクターヘッドや小型トラック等の実車を学校に持ち込んでいただき技術講義を受講したり、自動ブレーキサポートシステムや大型トラックの走行性能等を同乗体感することにより、物流を支える人々やトラックの大切さ、労働環境の改善に関わる技術革新を理解する。	いすゞ自動車九州(株)

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

職務の遂行に必要な知識及び技術等を習得させ、その遂行に必要な教職員の能力および資質等の向上を図る。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「輸入車技術研修」 連携企業等：(株)ケーユーホールディングス
期間：7月26日〔金〕 対象：教員
内容：輸入車ディーラーの視察、新型メルセデスベンツ、BMW新機構等の最新技術を学び体験し学生の就職・教育に役立てる。

研修名「日産技術講習会」 連携企業等：日産自動車(株)
期間：8月6日〔火〕 対象：教員
内容：日産のインテリジェントモビリティ、プロパイロット2.0、プロパイロットパーキング、エマージェンシーブレーキ等の最先端技術を体験することで、学生の教育に役立てる。

研修名「第9回マツダSKYACTIV技術セミナー」 連携企業等：マツダ(株)
期間：8月8日〔木〕 対象：教員
内容：SKYACTIVエンジンの新技術、車載通信機によるサービス等の技術を学び体験し、学生の就職・教育に役立てる。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「第23回JAMCA教職員夏季研修会」 連携企業等：全国自動車大学校・整備専門学校協会
期間：7月30日〔火〕～8月2日〔金〕 対象：教員
内容：学生の心理を理解し、指導方法とコミュニケーションの技法を習得し、学生の教育・指導に役立てる。

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「整備主任者法令研修会」 連携企業等：(社)福岡県自動車整備振興会
期間：10月～11月 対象：教員
内容：自動車整備事業の現状把握、整備作業に伴う安全対策を授業に役立てる。

研修名「大型車取扱い事業者向け勉強会」 連携企業等：(社)福岡県自動車整備振興会
期間：11月11日〔水〕 対象：教員
内容：大型自動車に搭載される新機構の構造・機能及び故障診断方法等を理解し授業に役立てる。

研修名「自動車検査員法令研修」 連携企業等：(社)福岡県自動車整備振興会
期間：1月～2月 対象：教員
内容：自動車整備事業の現状把握、整備作業に伴う安全対策及び自動車検査業務を授業に役立てる。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「オンライン授業向上研修」 本校主催
期間：3月 対象：教員
内容：オンライン授業のためのツール研究及びオンライン授業の効果的な技術・スキルの向上

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

教育の質の保証・改善、社会に対する説明責任、学校評価を通じたガバナンス改善に向けた自主的な取組を促進していくことを目的とし、学校の教育活動や学校運営の状況に対して外部の学校関係者による評価を行い、その結果を教育活動・学校運営に活用する。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	・理念等の達成に向けた特色ある活動
(2)学校運営	・理念等を達成するための事業計画
(3)教育活動	・教育目的・目標に沿った教育課程 ・キャリア教育の実施 ・資格・免許取得の指導体制
(4)学修成果	・資格・免許の取得率向上への取組み
(5)学生支援	・就職等進路に関する支援組織体制 ・退学率の低減 ・学生相談に対する相談体制 ・保護者との連携体制の構築
(6)教育環境	・教育上の必要性に十分対応した施設、設備等の整備 ・学外実習 ・インターンシップ等の実施体制の整備
(7)学生の受入れ募集	・接続する教育機関に対する情報提供の取組み
(8)財務	・学校の財務基盤体制 ・予算、収支計画の適正性 ・会計監査 ・収支状況の公開体制
(9)法令等の遵守	・学校が保有する個人情報保護に関する対策の実施
(10)社会貢献・地域貢献	・学校の教育資源を活用した社会貢献、地域貢献の実施
(11)国際交流	・留学生の受け入れ、実施状況

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

車両点検作業時の声掛けなど、安全管理意識が低い学生が多いイメージがある。徹底的な指導を続け、習慣化させることが必要であると感じる。

→点検実習作業確認時に安全作業等に関する復唱を行い、各実習作業に入る前に安全作業の確認を行うようにした。また、実習作業終了後には毎回チェックシートを使った振り返りおよび工具のチェックを行い、当日の実習作業で安全作業が行っていたかを確認するようにした。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和2年11月1日現在

名 前	所 属	任 期	種 別
西本 考造	トヨタカローラ福岡株式会社 総務部 人事グループ グループ長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日	自動車業界
井手 克英	トヨタカローラ福岡株式会社 サービス部 技術グループ グループ長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日	自動車業界
村川 英司	一般社団法人福岡県自動車整備振興会 指導部 部長	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日	業界団体
井上 武之	経歴: 高等学校校長、篠栗町教育委員長	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日	教育有識者
川上 康治	ヤナセバイエルンモーターズ株式会社 福岡本店 サービス課 係長	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他()

URL : <https://www.nishitetsu-seibi.ac.jp/>

公表時期 : 令和2年10月1日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等の学校関係者との連携及び協力の推進に資するため、教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を、具体的に分かりやすく、且つ積極的に提供するものとする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	・建学の精神 ・教育方針 ・校長名、所在地、連絡先等 ・学校の沿革
(2)各学科等の教育	・収容定員 ・カリキュラム ・資格
(3)教職員	・教員の担当科目
(4)キャリア教育・実践的職業教育	・キャリア教育 ・企業実習 ・就職支援
(5)様々な教育活動・教育環境	・学校行事
(6)学生の生活支援	・学生支援(健康診断、学生相談等)
(7)学生納付金・修学支援	・学生納付金 ・経済的支援措置(奨学金、授業料減免等)
(8)学校の財務	・収支状況
(9)学校評価	・自己点検・評価、学校関係者評価の結果
(10)国際連携の状況	・留学生の受入れ、実施状況
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他()

URL : <https://www.nishitetsu-seibi.ac.jp/about/schoolinfo.html>

公表時期 : 令和2年10月1日

授業科目等の概要

工業専門課程 自動車整備科 令和2年度																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			ガソリンエンジン構造	ガソリンエンジンの構造、作動について理解する	1通	45		○			○		○		
2	○			ジーゼルエンジン構造	ジーゼルエンジンの構造、作動、関連部品等の構造、作動を理解する	1 2後前	50		○			○		○		
3	○			シャシ車体構造	シャシ関連の部品の構造、作動等を理解する	1通	130		○			○		○		
4	○			電装品構造	電気の基本と電装品の構造、作動を学ぶ	1通	83		○			○		○		
5	○			特殊機構	エンジンの電子制御システムやハイブリッド自動車のシステム等を学ぶ	2前	40		○			○		○		
6	○			自動車の力学・数学	自動車整備などに関する計算問題を理解する	1 2通前	52		○			○		○		
7	○			電気・電子理論	半導体の基本と通信システムを学び理解する	1後	27		○			○		○		
8	○			材料	自動車に使われている材料の特徴、材質、用途などを理解する	2前	25		○			○		○		
9	○			燃料・潤滑剤	自動車に用いられる燃料や油脂類の種類、性質、特徴などを学ぶ	1前	30		○			○		○		
10	○			図面	製図で使われる記号や用いられるルール等の基礎を学ぶ	2前	16		○			○		○		
11	○			ガソリンエンジン整備	ガソリンエンジンの構造、作動等を確認し、点検整備法を学ぶ	2前	32		○			○		○		

12	○		ジーゼルエンジン整備	ジーゼルエンジンの構造、作動等を確認し、点検、整備法を学ぶ	2 前	30		○		○		○					
13	○		シャシ車体整備	シャシ関係の部品の構造、作動を確認し、点検、整備法を学ぶ	2 前	40		○		○		○					
14	○		電装品整備	電装品の構造等を確認し、点検、整備法を学び実践につなげる	2 前	40		○		○		○					
15	○		故障原因探究	各装置の故障現象とその診断について学び理解を深める	1 2 後 前	76		○		○		○					
16	○		整備作業機器	自動車整備に使われる整備機器とその使用方法について学ぶ	1 前	12		○		○		○					
17	○		測定機器	自動車整備で使われる測定機器とその使用方法、数値の読み取り方を学ぶ	1 前	12		○		○		○					
18	○		検査機器	自動車整備で使われる検査機器とその使用方法について学ぶ	1 後	12		○		○		○					
19	○		自動車検査	自動車の定期点検に関する法令を学ぶ	1 2 後 前	30		○		○		○					
20	○		自動車整備に関する法規	道路運送車両法や法安基準など整備士として必要な法令関係を学ぶ	2 前	30		○		○		○					
21	○		安全管理	整備作業をする上での安全対策について学ぶ	1 通	5.5		○		○		○		○			
22	○		工場管理	工場内の各設備の取り扱い等を学ぶ	2 後	7		○				○		○		○	
23	○		社 会	社会人としてのマナーなど知識全般を身につける	1 2 通 通	170.5		○		○		○		○		○	
24	○		体 育	校外での行事を通してリレーションを構築する	1 2 前 前	22		○				○		○		○	
25	○		手仕上げ工作	工作機器について知り、実際に使って作業をする	1 前	24.5				○		○		○		○	

26	○		機械工作	溶接機器について知り、実際に使って作業をする	1 前	24.5					○	○	○			
27	○		基本計測	自動車整備に用いられる測定具を知り、実際に使いこなす	1 通	57					○	○	○			
28	○		ガソリン 点検・分解・ 組立・調整・ 検査	ガソリンエンジンや部品の分解、点検組立てなどの実習を行う	1 2 通 通	245					○	○	○			
29	○		ジーゼル 点検・分解・ 組立・調整・ 検査	ジーゼルエンジンや部品の分解、点検組立てなどの実習を行う	1 2 通 通	162					○	○	○			
30	○		シャシ 点検・分解・ 組立・調整・ 検査	シャシ関係の部品の分解、点検組立てなどの実習を行う	1 2 通 通	260					○	○	○			
31	○		電装品 点検・分解・ 組立・調整・ 検査	電装品の分解、点検、組立て、電気装置のシステム点検などの実習を行う	1 2 通 通	217					○	○	○			
32	○		故障原因探究	自動車に発生した故障を診断し修復作業を行う	1 2 通 通	302					○	○	○			
33	○		自動車 検査作業	自動車が保安基準に適合するか検査ラインで完成検査を行う	1 2 後 通	60					○	○	○			
34	○		企業体験実習	企業での社会体験を通して実際の仕事を体感する	1 通	31					○	○	○	○	○	○
合計				34科目	2164単位時間 (単位)											

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
国土交通省の規定のもと、学科（講義）600時間以上、実習1200時間以上の受講が必要 学生の受講時間不足を予め見込んで、規定時間に多少の時間を上乗せし総時間を増やした。	1 学年の学期区分	2期	
	1 学期の授業期間	27週	